

【海外渡航者（赴任者、家族を含む）のためのワクチン】

中近東・アジア・アフリカを中心に赴任される方へ

海外への赴任が決まってお忙しいことと思います。しかし赴任に際し早くから準備しなければならないのが、予防接種です。予防接種に対する考え方は国によって大きく異なるため、日本の予防接種に対する考え方が通用しないことや日本の予防接種が国際基準に達していないため注意が必要です。以下のことに気をつけ計画を立てるようにして下さい。

1 予防接種に関する基本的考え方

トルコを含む中近東、アフリカ、インド、インドネシア、タイなどのアジアでは日本では流行の
みられない感染症があり渡航に際しては予防接種はそれに対する自己防衛のためにおこなわれます。
日本国内でも流行はあるものの公費負担になっていないものや予防接種の効果が落ちてきていると
考えられるものについても接種が必要な場合があります。

2 具体的には

相手国の感染状況や予防接種の状況を前任者やインターネットを通じて調べましょう。
インターネットでは下記のアドレスなどを参照下さい。

海外赴任者と子供への感染症及び予防接種情報	http://www.forth.go.jp
在外公館医務官情報	http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/
海外勤務健康管理センター	http://www.johac.rofuku.go.jp/

母子手帳、学校の記録（二種混合、日本脳炎など）を確認した上で、それを持参し医療機関を受診
ください。事前に医療機関に連絡し、「海外渡航における予防接種の相談で受診したい」と告げて
受診日時を決めて下さい。その際、以下の事を必ずお伝えください。

- ①渡航先の国名
- ②出国予定日
- ③渡航日数（年数）

スケジュールを決めるには30分程度かかります。最初の相談日は接種のスケジュールのみを
決める程度とお考え下さい。

3 同時接種について

出国予定日まで日数がない場合（6ヵ月未満の場合）などは数種類の予防接種を同時に行う、
という方法があります。ワクチンは混ぜることができないので、同時に数カ所に接種すること
（手や足に接種することで4種類程度まで）が可能です。同時接種によって副反応が強くなることは
ありませんが、注射の痛みにより気分が悪くなる方がおられます。
同時接種は海外渡航用のワクチンをされている施設では頻繁に行われているものの、同時接種
をおこなうかどうかの最終判断はご本人（保護者）の考え方にお任せします。

4、証明書（英文含む）に関しては随時発行しますが、即時発行はできません。

5 主な予防接種

・破傷風

世界中の土壌に常在している菌が原因で、怪我などで感染する。日本国内でも感染例はある。昭和50年以前生まれの人は、予防接種されていない方も多い。25歳までの方で、規定通り接種できていれば、1回の追加接種でよいが、25歳以上の方は効果がなくなっている可能性があり、3回の接種（1回目から2-4週後に2回目の接種を行い、その半年から1年後に3回目の接種）が望ましい。

・A型肝炎

生水・生野菜・加熱不十分な食材（特に魚介類）で感染。アジアでは最も注意しなければならない感染症である。16歳未満の子どもにはワクチンの適応が日本では得られていないため、保護者の同意の上、希望により接種となる。（年少児で感染しても軽症で済むといわれているが欧米では2歳前後から接種している）

2-4週間隔で2回接種し、半年から1年後に3回目を追加接種すれば5-10年有効とされる。

・日本脳炎

蚊に刺されることで感染、日本よりアジアに多い。

小児期に規定どおり接種していれば、20歳代は1回追加接種で効果はあるが、30歳以降もしくは20歳代で接種歴がなければ、2-4週間隔で2回接種し半年から1年後に3回目を追加接種すれば約10年間は有効とされる。

・B型肝炎

血液・性行為を介して感染する。国際的には小児期に全員接種している国が多い。

1カ月間隔で2回接種し、半年から1年後に1回追加接種すれば5-10年間は有効とされる。

ただし免疫のつきにくい人がいるので、接種後に抗体検査で確認することが望ましい。

・狂犬病

犬・コウモリ・猿・猫・キツネなどに噛まれたり、舐められたりして感染する。インド・中国での感染者が多い。発症すると100%の死亡率である。感染蔓延地域（インド、中国など）に長期赴任する場合は暴露前接種（2-4週間隔で2回接種。約6ヶ月後に1回接種）を考慮する。旅行者や短期赴任者では受傷してからの暴露後接種（咬まれた後、即座に現地の医療機関を受診すること）が基本である。

・ポリオ（小児麻痺・急性灰白髄炎）

流行地域はアフリカや東南アジア。

日本では2回接種であるが世界標準は3回接種なので、流行地域に渡航する場合は小児期に2回接種していても追加接種が望ましい。

・コレラ

ひどい水様下痢の原因。1週間隔で2回接種、6か月ごとに追加接種。ただ効果は弱く、発症しても現在は治療可能であるため、強く希望される方のみ接種。

・黄熱

アフリカや南米の一部の国に入国するために必要。入国の10日前までに接種する。現在、接種できるのは検疫所のみであり、和歌山から最も近いのは関西空港検疫所となる。

関西空港検疫所

問合せ先；Tel；072-455-1283（祝・日を除く月～金 8：30-12：00 13：00-17：00）

月山病院 予防接種外来

TEL:073-423-2300

E-mail:tsuki423@oregano.ocn.ne.jp